

## 令和4年度学校目標 (令和5年公開)

### 学校目標

- (1) 本校は、高等専修学校で、高等学校と同じように普通教科の学習のほかに、職業生活に役立つ技能・技術を学ぶ専門教科を学習します。また、日本教育学院高等学校と技能連携をむすび、卒業時には高校卒業資格を得ることができます。生徒は、関西情報工学院専門学校の卒業証書と高校の卒業証書の2種類を取得することになります。このように2種類の卒業証書を取得して卒業することをめざします。
- (2) 本校の教育理念は、「すべては礎の上に」であり、何ごとにも「基礎・基本」が大事であり、単に学習の習得だけでなく、学習の「礎」にもなる「生活習慣の確立」をめざします。
- (3) 本校の目標とする生徒は、日本の社会発展に寄与・貢献し、社会で活躍する「人材」、「責任と実行力」のある人材を育成することをめざします。
- (4) 基礎的体力、社会的コミュニケーションの育成・確立を目指して、「運動」(「クラブ活動」・「ボランティア活動」など)を推奨します。
- (5) 新型コロナウイルス感染症の対応を迅速に実践することをめざします。

### [めざす学校像]

- (1) 本校の教育理念は、「すべては礎の上に」であり、何ごとにも「基礎・基本」が大事であり、単に「教科学習」の習得だけでなく、学習および社会生活の「基礎・基本(挨拶・礼儀)」を大事にし、「基本的生活習慣」の確立をもめざす。
- (2) 本校の目標とする生徒は、日本の社会発展に寄与・貢献し、社会で活躍する「人材育成」を主眼とし、「責任と実行力」のある人材になるよう育成する。
- (3) 人権学習を重視し差別、いじめのない安心・安全で生活できる学校をめざす。
- (4) 日々の学校生活の中で基礎的体力、社会的コミュニケーション能力の育成・確立を目指して、「運動」(「クラブ活動」・「ボランティア活動」など)を推奨し、自己表現できる場を提供する。

### [学校目標]

- (1) に関して
  - ① 上記の目的を達成するため、検定資格(日本漢字能力検定、日本数学検定、英語検定、全商情報処理・ビジネス文書実務検定(ワープロ検定)、全経簿記検定、色彩検定、等)の取得を推奨し、合格率を上げる。上位検定取得も奨励する。
  - ② 不登校傾向のある生徒に対しては、登校指導とともに、家庭訪問などの諸策を講じ、進級・卒業に向けて尽力する。今年度の重点目標は、退学防止である。
  - ③ 「分かる授業」を実践し、「授業改善」を図る。常に環境美化に努めきれいな教室、学習できる教育環境の充実に図る。
  - ④ ピアカウンセリングを実施し、生徒の学校生活や高校卒業後の進路などについて、先輩として話しを聞き不安を和らげ支援する。
- (2) に関して
  - ① 各学期の中間・期末考査前の一週間は、毎日放課後勉強会を実施すると共に、基礎学力の定着を促して

いる。

- ②人間関係の基礎基本に当たる挨拶の励行では、日ごろから挨拶の大切さを指導し、生徒会の活動において毎月のように「挨拶運動」週間を実施し、学校全体で挨拶の励行に取り組んでいる。
- ③生活習慣の確立を目指し、欠席者には必ず連絡をし、遅刻者には遅刻理由と健康確認を促している。また月1回必ず生徒と懇談を行い生活習慣が乱れることのないよう話し込みに取り組んでいる。

### (3) に関して

- ①社会に貢献、活躍できる人材の育成については、1年次より卒業後の進路に眼を向けさせ、週1回の「進路」授業を通して目標を持たせ、それに向かって努力するよう取り組んでいる。
- ②3年間の月別進路指導表を作成し、生徒や保護者に進路指導の目標や流れの理解を促す。  
また、月1回「進路だより」を発行し生徒や保護者に配布。各学年の進路の取り組みなどを理解しやすいように工夫する。
- ③3年間の高校生活を見通した計画的・発展的な指導体制を築き、「進路年間予定表」（全学年）を発表し、同時に長期休暇中には学校で学習する時間の増大を図り、希望する進路実現の具体化を図る。
- ④ハローワーク担当者や企業経営者、卒業生による講習や講演を実施することを通して、必要な情報を提供し、進路決定に役立たせる。
- ⑤1年次より、就職困難生徒を対象に、放課後「進路クラブ」を実施し、基礎的な技術の習得や体力の増進を図る。
- ⑥クラブ活動の参加率を高め、集団生活における心構えや意識の涵養を図る。また、1年2学期より、アルバイトの奨励とともに、2年の就労体験、2年の年度末の進路相談の充実を図る。
- ⑦種々のボランティア活動を個別に紹介し、奨励する。学校周辺の清掃活動を実施し、ボランティア精神を涵養する。

上記3つの目標を達成するために、教員間の連携を強め生徒を善導していく。

### [校務分掌の目標]

#### [教務部]

#### 【年次目標】「Work SMART !」

評価（振り返り）ができる状態を作り、単に努力するだけでなく持続可能な業務を行う。

- Specific（具体的に）  
誰が読んでもわかる、明確で具体的な表現や言葉を用いる。属人的な業務を「教務の手順メモ」や「お知らせ・要項」を作成しすぐに共有できるようにする。
- Measurable（測定可能な）  
目標の達成度合いが誰でも判断できるような指標を作成し定量化して表す。特に、検定の合格率、出席状況、補習状況、学習状況、成績向上については、指標を設定し示す。
- Achievable（達成可能な）  
職員会議や各教職員の発言を具体化するよう動き、計画する中で課題を発見する。思い付きが課題解決につながることもあるので、一つひとつの言葉に真摯に向きあう。
- Related（学校目標に関連した）  
設定した目標が「関西情報の理念や指針」に基づくものか、また、教務部の目標や関西情報の未来の姿としてふさわしいのかを判断する。そのために、部会での協議や、馴れ合いにとどまらない、本音が言い合える教職員間の人間関係を作っていく。
- Time-bound（時間制約と時間の無駄を省く）

期限や期日を厳守する。提出や報告がないことについては、余裕がある側から声掛けを行うことを心掛ける。時間や報告がないことを責めることは時間の無駄とし、教職員同士の足りていない所を、支え合って、学校としてプラスになるように貢献する。

**【各学年目標】（生徒用）**

年次目標	内 容
1 年生	・ 10分間読書の徹底      ・ 学ぶ意味を持つ      ・ 勉強の楽しさを知る
2 年生	・ 学校行事について前例を見て準備する。 ・ 検定への積極的なアプローチを行い受験数の増加と合格できるように取り組む。
3 年生	・ 卒業後につながる社会に順応できる力を身につける

**[生活指導部]**

**【年次目標】「安心して安全に学校生活を送れる学校」**

- ① 1年間を通して皆出席を目指し、遅刻欠席のないように指導する。
- ② 校則の遵守に努め、風紀委員による活動を充実させサポートする。（服装・頭髪違反者を無くす）
- ③ 校内外の美化に努め、美化委員による活動を充実させサポートする。（ゴミや汚れを無くす）
- ④ 全教職員共通認識のもと、生徒をしっかりと観察して問題行動防止に努める。
- ⑤ いじめが起きないように部から学年へ、学年からクラス（担任）へと生徒指導の統一と一貫性を遵守するように図る。また、生徒との懇談を充実させ生徒の言動に注意を配り、生徒の情報を常に共有することを図る。
- ⑥ いじめが起きた場合、早期に事情を聞き取り対策委員会に報告（職員会議）し、学校全体の問題として捉え解決へと導く。
- ⑦ いじめ、虐待、食物アレルギー、熱中症、コロナ、災害は重要課題なので、常に教職員に意識を持たせ、校内研修に務める。

**【各学年目標】（生徒用）**

年次目標	内 容
1 年生	ルールを守ろう（校則・時間）
2 年生	進路を創る規範意識の構築（頭髪・服装・登校時間） 他者から認められる姿を意識する（後輩の見本になる生徒になる）
3 年生	最上級生としての自覚を持ち、いつでも進路活動に臨める姿勢を作る

**[進路指導部]**

**【年次目標】「自己理解（発見）・自己充実（成長）・自己実現」**

高校生活は「長距離走」です。日々の一步一步の積み重ねが確かな結果につながります。スタートダッシュは大切ですが、ずっとダッシュし続けるわけにもいきません。大切なのは「見通し(戦略)」と「強い意志(情熱)」です。全体を見通してどのようにペース配分し、どこで仕掛けるのかという戦略を立てること、そして目標を定め、絶対に達成しようとする強い意志を持ち続けること、この2つが高校生活を充実したものにする鍵だと思います。

**「知覚動考」＝「ともかくうごこう」**

知って 覚えて 動いてから 考える      ということです。

普段、自分がどういう風に順序立てて考えているかを思い出してみてください。

知って 覚えて 考えてから 動く という順序なはずです。

動いてから考えるというのと、考えてから動くという順序が逆になっています。でも、考えた時点で、足が止まってしまいます。

「これをやったら、もしかしたら怒られるかも…」

「もしかしたら失敗するかも…」と、考えてしまうのです。

多くの人々が、この「考えてから動く」という行動パターンになっています。だから何もできずに、何も経験せずに終わってしまう可能性が高いです。そうならないために、進路指導部の働きかけが重要になります。

#### 1年生は「職業を知る」→「自己理解（発見）」

学問領域や職業にはどのようなものがあるのか、多くの情報を収集し、自分の視野を広げるとともに、自分の興味関心や資質・能力がどんなところにあるのかなど「自分を知る・理解する」ことが目標となります。

#### 2年生は「進路（就職・進学）決める」→「自己充実（成長）」

就職・進学選択で自分の方向性が確定したら、企業見学・インターンシップを通して自分自身に求められている力は何かをきちんと認識する。学部・学科調べやオープンキャンパスなどを通して進学先を具体化していきます。さらに、授業や諸活動を通してしっかりと自己を伸ばしていくことが大きな目標となります。

#### 3年生は「進路を実現する」→「自己実現」

3年生の最大目標は、何といたっても「進路実現」です。希望する会社や大学等への内定や合格を実現するために「戦略」と「情熱」を持って日々努力することになります。ただし就職、合格がゴールではありません。小手先の力ではなく、入社後、入学後を見据えた真の実力をしっかりと身に着けることが目標となります。

#### 【各学年目標】（生徒用）

年次目標	内 容
1年生	自分の将来を見据えて、学問・職業について探求する。
2年生	進路意識の認識、実行、結果へとつなげる。
3年生	就職・進学 100%決定！ 離職・退学しない力を養う。

#### 【事務局】

- ①学費・諸費徴収をスムーズに行うため、保護者連絡文書表現を改善し、教職員・保護者からの連絡に適切に対処する。また、保護者説明会やオープンキャンパス参加の中学生や保護者に分かりやすく図表化し、プロジェクターなどを使って説明する。
- ②各家庭の事情や経済状況を踏まえ、保護者と相談のうえ、学費の分納や延納などの対応を行う。
- ③就学支援金・奨学金の事務処理を的確に行う。

#### [1学年]

#### 【目 標】

年次目標	未来図を描く
1学期	人を知ろう、自分を知ろう、未来への種をまこう
2学期	得意を伸ばそう、人の得意に学ぼう
3学期	未来図を描こう

#### 【具体的手段・方法】

- ①新しい環境で、優しい穏やかな気持ちで過ごすためにどうすればよいのかを考えよう。他人も自分も大切に尊重しよう。そして、自分の可能性について知ってみよう。
- ②自分のできること（得意）を伸ばし人に知ってもらおう。行事や検定試験がたくさんあり、一人ひとりの個性が発揮できます。その中で人の得意を見つけ、真似しよう。
- ③自分が「できること」や「やりたいこと」が集団（社会やチーム）の中でどのように発揮できるのかを見つけよう。そして、未来図を描き、2・3年生でやることを考えよう。
- ④人や学校を傷つける言葉や行為は絶対に言わない、しない。（人権意識と規範意識）  
自分が良くて人が傷つく言葉や行為があることを意識し、人を傷つけない優しい気持ちを育む。身内だけでなく、思いやりを誰に対しても発揮できる人になる。学校での公を学ぶ場として意識し、制服の重みや集団行動の心構えを養う。
- ⑤学校生活を大切にすること。学生は学んで生きる人。（学習の本質と学生としての学び方）  
進路決定の準備期間は約880日。毎日の継続が大切であり、新しいことの積み重ねが視野を広げ、視座を高める。学校生活の学びは、点数だけでなく、可能性を広げることに関心させる。共に力を出して励む「勉強」を心がける。
- ⑥学校生活・行事はみんなで作る。社会は1人では生きていけない。（帰属意識と集団行動）  
一人ではできることが限られていることに気付く。助け合う心や集団の一人としての考えを身につける。遅刻や欠席、消極的な発言や姿勢は集団に影響がでることを認識する。一人ではできない大きな目標を達成する課題解決力を養う。
- ⑦入学式後、1年全員に「高校生活」の目標と取り組みについて校長を始め、教務部、生活指導部、進路指導部の各部長及び各学年主任から説明を行い、学校生活を理解し、基本的な生活習慣の確立を目指す。  
1学期実施の校外学習やサマーキャンプを通して友達の輪を深め、他人も自分も大切に尊重する心を育成する。
- ⑧遅刻・欠席防止のため、生徒の意識改革と保護者の理解と協力を強く求める。  
1学期は中学校の基礎学力の養成と定着を図る。また、他人も自分も大切に尊重できる空気作りに努める。
- ⑨中学校と高校の学習、進級、卒業の違いを理解させ、学習意欲を向上させ卒業を目指す。
- ⑩最終学期に2年になるための準備をする。学校生活や卒業後の進路に対する意識を高め、進路の目標を早期に確立させる。

## [2学年]

### 【目 標】

年次目標	未来をつくる3つの力（創造力・行動力・実行力）を手に入れよう。
1学期	自分自身と向き合い、自分がすべき課題を見つけ（創造）よう。
2学期	苦手分野は克服し、得意分野は更なる強みに出来るよう（行動）しよう。
3学期	進路決定のために（実行力）を発揮して、3年生になる準備をしよう。

### 【具体的手段・方法】

- ①進路を意識しての資格取得や基礎学力の向上を図る。生徒との「個別面談」や保護者・生徒との「三者面談」を実施して、生徒に課題を伝え前向きに取り組むように図る。
- ②学校生活を充実させ、進路意識の向上を図るために、年2回進路合宿を行い、社会性を身につけ、集団生活に適応する力を養成する。
- ③進路決定をする際、出席状況が重要であり、1年次の出席状況を反省して、遅刻・欠席をしないように1学期から取り組む。

④1年生で職種、校種を学び、2年生終了時点では、職種、校種を決定する。

### [3年生]

#### 【目標】

年次目標	七転八起
1学期	一意専心
2学期	切磋琢磨
3学期	前程万里

#### 【具体的手段・方法】

- ①進路実現、卒業に向けて様々なことに取り組み進路活動の中で失敗もあるかもしれないが、失敗を恐れずに最後まで何度も挑戦するように育成する。
- ②勉強や人徳を磨くことで、仲間同士で励まし合い、成功、向上を目指すように育成する。
- ③生徒の前途に大きな可能性が広がっている。最高の形で卒業を迎えるように育成する。
- ④春期休暇中に進路部長による3年生全員の進路希望面談を行い、3年生の進路の流れを確認する。  
就職希望者は、7月からの求人票掲示、求人票の見方、応募前職場見学、応募・受験の流れまでを理解させる。また、夏期休暇中の進路学習では、採用試験の筆記試験学習、履歴書の清書、面接の受け方などを学習し、9月16日に始まる高卒求人の採用試験に備える。
- ⑤進学希望者に関しては、3年生になってから、進路指導部による面談を実施する。希望校のオープンキャンパスやネット等を利用して得た情報から複数の受験校を選び、募集要項を早めに集める。芸術系大学など受験に実技が必要な場合は、担当教員と打ち合わせて補習を実施し、受験に備える。9月末までに受験の応募書類を準備し、願書提出に備える。
- ③3年6月の「直前進路合宿」で、上記目的を理解させるとともに、集団生活を通してのルールの大切さ、マナーの重要性を理解させる。また、マナーに関しては、7月実施の「テーブルマナー」で確認する。
- ④進学希望者は、夏休み中の勉強合宿に参加し、集中的に大学などの過去入試問題を解き、受験勉強の追い込みに入る。
- ⑤進路講習会では、ハローワークの担当者の講演会を開催するだけでなく、企業研修や進学体験を聴く機会を設けている。
- ⑥3学期に「進路ガイダンス」を2回設け社会保険関係と年金関係（外部講師）の学習を行っている。

#### 【新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策による学校目標】

##### ①感染拡大予防対策について

###### 【生徒個人】

- ア) マスクの着用、うがい手洗いの励行、手の消毒
- イ) 体調管理、検温（健康日誌の記入）の励行
- ウ) 外出の自粛
- エ) 生徒の心のケア

###### 【学校内】

- ア) 教室の換気、空気清浄機の設置
- イ) 使用教室の消毒及び共有箇所の消毒
- ウ) 三密（密閉、密集、密接）を避ける
- エ) 食事は同じ方向にむいて黙食

## 【学校生活】

### ア) 学校生活の短縮、縮小

- ・クラブ活動の短縮、縮小
- ・学校行事の見直し（延期、中止）

（入学式、卒業式、校外学習、宿泊行事（修学旅行等）、健康診断、文化祭、体育祭、進路ガイダンス、スポーツ大会、各検定試験、入学試験、オープンキャンパス）

### イ) 新型コロナウイルス感染症への正しい知識と理解

### ウ) 濃厚接触者、陽性者への差別防止教育

生徒・保護者が感染しないように感染拡大予防対策の協力を求める。

## ②濃厚接触者、陽性者が確認された場合の対策

### ア) 保健所等への報告・連絡・相談・指示

### イ) 生徒の症状確認（個人情報保護の厳守）

### ウ) 生徒の心のケア

### エ) 学校施設の消毒

### オ) 学校からの連絡（他生徒へ）

濃厚接触者、陽性者が確認された生徒の個人情報保護を厳守し、心のケアに努める。

### カ) 出席について

濃厚接触者、陽性者と確認された生徒は、出席停止扱いとする。また発熱（37.5度以上）および咳、のどの痛み等での欠席も出席停止扱いとする。